

登り窯を用いた地域伝統文化再生への取り組み  
島根県大田市水上地区を対象として

**島根県大田市水上地区の概要**

島根県西部の石見地方は三河、淡路と並ぶ瓦の産地である。その瓦は石州瓦と呼ばれ赤い色をしており、山陰の豊かな緑を背景に、独特の美しい景観をつくり出している。

かつてはいくつもの窯を積み重ねた登り窯で焼かれており、色合いも、焼きムラのある味わい深いものだった。

しかし、近年においては、地域の各所に見られた瓦用の登り窯もしいに姿を消し、現在では島根県大田市水上地区にただ1ヶ所となっている。



**登り窯活用への展開**

15年前に操業を中止され、荒れた状態であった。2005年の春、地元の人から登り窯が残っているが、それを活かせる方法がないか、という話があった。それまでも何とか窯を活かしたい、という話はあったが、個人所有のものに役所の予算（屋根や窯の修理）は、つけにくいということで前に進まなかった。

そこで、JUDI中国支部が、例会にあわせ、2005年12月3日に現地見学会を開催し、今後協力していくこととした。

活動メンバーは都市環境デザイン会議を中心とし、島根

寺本和雄（中国ブロック，(株)寺本建築・都市研究所）  
伊藤幹郎（中国ブロック，出雲市教育委員会）

県景観政策室や、大田市産業振興企画室、石見銀山課、瓦（工業組合）建築組合、地元有志と、進めることになった。

県と市と協議する中で、平成18年度に厚生労働省の補助金（雇用の創出をめざす活動資金）約500万円がつく見込みがあることとなった。しかし、この資金では、屋根が壊れないように補強する程度しかできない見込みである。

**登り窯プロジェクトの発足**

より活動範囲を広げるため、登り窯復活プロジェクトを立ち上げた。コアスタッフは、登り窯の所有者、設計関係、計画関係（JUDI）、瓦会社、建築施工、地元代表等からなる10名で構成し、広くこのプロジェクトを周知し、イベントを通じて多くの方に協力を得て、復元しようと活動を開始した。

活動の目的は主に以下の3つが挙げられる。

- 石州瓦の伝統的製作技術の継承及び生産・販売
- 動態展示・体験学習など観光振興への活用
- 各種陶芸作品製作への活用

**登り窯プロジェクトの今後の取り組み**

近々には、登り窯再生チームの呼びかけによって、登り窯の見学会を実施し、多くの理解者、協力者を得ることを目指している。

水上地区は、世界遺産登録を来年に控えた石見銀山遺跡の隣接地にあることもあり、今後、登り窯の保存については、技術の伝承・景観・文化財・地域振興（観光）面での総合的な視点から、活用方法について検討し、具体的な保存活動を展開していく予定である。

**登り窯復活プロジェクトの展開の可能性について**

	ケースA	ケースB
推進主体	民間（NOP、組合など）主体の活動	行政（市）が所有し、民間で運営
2006年度	今年度の予算内で等分の使用に耐えるように修繕を行う（10年間くらい） 試し焼き（小規模の予算）	試し焼きのための応急措置としての修理 試し焼き
2007年度	窯活用（パッケージ事業 その他事業）	屋根を本格的に修理する。 （窯活用の第2段階）